

令和6年度 日本大学スポーツ科学部 個人研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格： 教授

氏名： 清水 享

<p>研究課題名</p>	<p>東アジア周縁部における祭祀活動および経典テキストの歴史学、文化人類学的研究</p>
<p>研究目的及び 研究概要</p>	<p>本年度も二方面から研究を進めた。 ①彝族の祭祀と経典テキストの歴史学、文化人類学的研究 中国四川省に居住する彝族の祭祀活動と独自の彝文教典テキストなどから言語文字、文化、社会、歴史について、歴史学、文化人類学の視点から総合的に分析し解明する。 本研究では彝文教典テキストおよび口承資料などから教典テキストとピモの祭祀活動の歴史的变化、文化変容、社会的役割の変遷などを歴史学や文化人類学などの視点から、多角的に把握し、その実態や構造などを総合的に明らかにする。また彝語によることわざであるルビの基礎研究と社会関係の分析、および民族エリートである嶺光電という人物の彝文研究活動などの分析考察も進める。 ②博多祇園山笠の歴史学、文化人類学的研究 福岡市の年中行事に博多祇園山笠がある。この博多祇園山笠について文化人類学および歴史学の視点から、参与観察によるフィールド調査から歴史的、文化的な位置づけと現代社会の文脈のなかでの意味づけおよび構造の分析考察を進め、東アジアの周縁部である日本の祭祀活動としての分析を進める。</p>
<p>研究実績の概要</p> <p>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等</p>	<p>本年度も前年度から継続して、彝文経典テキストや口承資料および祭祀活動について、歴史学および文化人類学の視点から分析・考察を進めた。彝文経典テキストは宗教職能者「ピモ」がこれをまとめ、その多くを所有し、それらを用いて祭祀などの活動を行なう。「ピモ」が行なう祭祀活動と教典テキストの現状および歴史的变化や社会的背景について多角的な視点で分析を進めていたが、今年度も予定より分析の進捗状況は遅れてしまった。そのため次年度もこの研究は継続して進める予定である。祭祀活動と教典テキストや口承資料の実態および現状や歴史的变化、文化変容、社会背景に関するデータについて現地調査についても進めようとしたが、これも中国の政治的な状況などを考慮したため、現地調査は行なわなかった。また彝族の文化、社会、歴史についての研究動向等の討議、検討、交流を彝族文化研究者と進めようとしたが、これもすることができなかった。次年度は積極的に現地調査および学術交流を進めたい。また彝文教典テキストの内容や口承資料についての比較検討や分析に関しては、彝族のことわざである「ルビ」について特に精力的に翻訳を進め、研究の蓄積を行なった。ただ現状では研究成果の発表まで至らなかったため、次年度は発表できるように準備を進める。また彝族文化研究を進めた民族エリートの活動についての分析の進捗も十分でなく次年度も継続して研究を進める。 今年度は明石書店が次年度出版予定の『四川重慶を知るX章』の彝族に関する部分の執筆を進めた。担当した部分は「涼山イ族」、「信仰世界」(彝族の信仰世界)、「たいまつ祭」、の章を執筆した。 国内の研究として例年7月に行なわれる博多祇園山笠に参与観察の形態によるフィールド調査を今年度も進めた。博多祇園山笠期間中、博多祇園山笠の行事のなかに身を置き、参与観察を進めた。活動の記録および口述の記録を進めたが、まだフィールド調査の成果は十分ではなく、次年度もフィールド調査を継続的に進める予定である。</p>